

越谷市環境管理計画中間見直し(素案)に対するパブリックコメントの概要

意見募集期間	令和7年(2025年)11月17日(月)～令和7年(2025年)12月16日(火)
周知方法	<ul style="list-style-type: none">・広報こしがやお知らせ版11月号への記事掲載・市ホームページへの情報掲載・越谷cityメールでの意見募集案件の周知・情報公開センターでの意見募集案件の周知
意見提出方法	<ul style="list-style-type: none">・各施設に設置した意見箱への投函・郵送・FAX・電子メール・電子申請
計画(素案)・意見箱設置場所	全15か所 <ul style="list-style-type: none">・市役所環境政策課窓口・情報公開センター・各地区センター(13か所)
意見数	<ul style="list-style-type: none">・意見提出者:3人(内訳:投函0人、意見箱0人、電子メール0人、電子申請3人)・意見数:5件

<市の考え方の区分>
 A:計画(素案)に反映します
 B:計画(素案)に反映しません
 C:今後の取り組みの参考とします
 D:その他

No.	該当箇所	意見要旨	意見に対する市の考え方	区分
1	p.6	SDGSの普及・促進で、「越谷市のSDGS達成状況」2018(全国調査)2019(越谷市)の図を2025年のものに修正してください。	越谷市のデータについては、本計画策定時の2019年に行った市民アンケート調査の結果を掲載しております。 また、同時期の全国調査と比較するために、同データについては2018年の結果を掲載しております。	B
2	p.7、p.8	気候変動への適応、地球温暖化対策は、世界共通の長期目標として平均気温の上昇を2℃未満に保つこと、1.5℃に抑える努力を示されているので、夏の越谷市35℃以上の日数が減ると良いと思います。	いただいたご意見を踏まえ、施策の推進に努めてまいります。	C
3	p.13	市内の太陽光発電設備の設置状況の件数を増やしてほしいです。 また、市内の電力需要量について、2016年度19%程度と記載がありますが、2026年の数字に修正してください。	太陽光発電設備の設置件数の増加については、補助金を交付するなど、市民・事業者の行動変容を促す取組を推進してまいります。 また、市内の電力需要に係る記述については、環境省が公開している「自治体排出量カルテ」の2023年度の数字に修正いたします。	A

No.	該当箇所	意見要旨	意見に対する市の考え方	区分
4	3章 具体的目標と環境施策	<p>久伊豆神社を中心とした歴史的な環境に対する、異常気象下での積極的かつ計画的な環境保全施策の明確化について</p> <p>越谷市環境管理計画(中間見直し素案)を拝見しました。本計画では久伊豆神社が複数回取り上げられ、88ページには歴史的景観の例として写真も掲載されており、同神社および越ヶ谷宿周辺が市にとって重要な環境資産であることが明確に示されています。</p> <p>しかしながら、当該区域の保全に関する具体的施策や目標の解像度が、他の施策分野と比較して相対的に低く、計画としての実効性に課題が残るように感じました。さらに近年、異常気象が常態化している現状を踏まえると、「従来の自然環境維持」ではなく、「気候危機下での積極的な環境保全」が必要な段階に入っていると考えます。</p> <p>特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の連続した夏季猛暑 ・ゲリラ豪雨と極端な乾燥の繰り返し ・令和7年夏の記録的な高温・降雨不足 <p>により、久伊豆神社の社叢(樹林地)が大きなストレスを受けていると、多くの市民や関係者から指摘されています。</p> <p>専門家(樹木医)によれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹木の急激な樹勢低下 ・乾燥による根系ダメージ ・高温に伴う蒸散量増大 ・表土硬化による水分浸透の悪化 <p>などが明らかに進行しており、自然回復能力だけでは対処しきれない状況とのことです。</p> <p>久伊豆神社の社は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都市のヒートアイランド緩和 ●生態系保全 ●歴史的景観保護 ●地域文化の基盤 <p>を同時に担う、越谷市民にとって極めて大切な環境資源です。この社叢が失われれば、環境面にも文化面にも不可逆的な損失が生じます。</p> <p>要望(行政に望むこと)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、久伊豆神社および周辺樹林地を、異常気象リスクも踏まえた「重点的環境保全区域」として明確に位置づけてください。 2、樹木の樹勢診断・土壌診断を、行政主導で定期的(例:年1回)に実施する仕組みを計画に明記してほしいです。 3、猛暑・乾燥対策として、保水性向上のための表土改善・根域保全など、短期的な緊急対策も含めた工程を示してほしいです。 4、参道・境内周辺の過度な地表硬化が根系に与える影響を考慮し、対策方針(透水性舗装の導入検討など)を計画の中に位置づけてください。 5、久伊豆神社を含めた地域が環境保全区域である以上、将来像と評価指標(樹木健全度、樹林地面積、土壌健全度など)の設定を明確にしてほしいです。 <p>まとめ</p> <p>環境管理計画において久伊豆神社が重要地域として扱われていることは大変心強く感じます。一方で、写真掲載や言及があるにもかかわらず、施策水準が曖昧なままでは、実効性に乏しくなる懸念があります。</p> <p>越谷の象徴的な自然・文化環境を次世代につなぐため、行政主導での積極的な環境保全と、具体的な行動目標の明確化をぜひお願いしたいと考えます。</p>	<p>地球温暖化との関連が指摘されている気候変動により、地域の自然環境や市民生活等への影響が懸念され、そのリスクや影響を回避・軽減するための対策が必要であると認識しております。</p> <p>本計画において、久伊豆神社周辺等の環境保全区域に関する取組につきましては、「都市緑化の推進」や「生きものの減少防止」の中に当該区域の周知・啓発活動を位置付けるほか、樹林地・樹木の保全や適切な管理の推進に包含して内容を整理しております。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>	C

No.	該当箇所	意見要旨	意見に対する市の考え方	区分
5	3章 具体的目標と環境施策	<p>越谷でさまざまな地域活動に関わる中で、久伊豆神社の社叢(森)が多くの人にとって「心のよりどころ」になっている場面を何度も見てきました。越ヶ谷宿の歴史、地域の文化行事、子どもたちの学びの機会——これらすべての土台に、この社叢の存在があると実感しています。</p> <p>しかし、近年の猛暑や乾燥の影響で、木々が明らかにストレスを受けている様子が見られます。長年地域に関わってきた立場として、このままでは次の世代にきちんと引き継げないのではないかと強く危機感を持っています。</p> <p>計画案では久伊豆神社周辺が「越谷の大切な自然・歴史的環境」として位置づけられている一方、その保全方法が十分に書き込まれていません。せっかく重要な場所として明記しているのであれば、定期的な樹木の健康診断、乾燥対策、保全の優先順位づけなど、具体的な方針や目標を計画に盛り込んでいただきたいです。</p> <p>久伊豆神社の社叢は、地域の文化と自然を未来へつなぐ“越谷の根っこ”のような場所です。次の世代にも誇れる景観として残せるよう、行政として力強い保全策を打ち出していることを望みます。</p>	<p>地球温暖化との関連が指摘されている気候変動により、地域の自然環境や市民生活等への影響が懸念され、そのリスクや影響を回避・軽減するための対策が必要であると認識しております。</p> <p>本計画において、久伊豆神社周辺等の環境保全区域に関する取組につきましては、「都市緑化の推進」や「生きものの減少防止」の中に当該区域の周知・啓発活動を位置付けるほか、樹林地・樹木の保全や適切な管理の推進に包含して内容を整理しております。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>	C

第2回越谷市環境審議会(10/31開催)における主な意見と対応

<市の考え方の区分>
 A:計画(素案)に反映します
 B:計画(素案)に反映しません
 C:今後の取り組みの参考とします
 D:その他

No	素案該当ページ	章	該当箇所	意見要旨	意見に対する市の考え方	区分
6	p.2	1章	環境管理計画中間見直しの趣旨	国の第六次環境基本計画では、「ウェルビーイング」を重要施策に位置付けているため、それを追記した方が良い	第六次環境基本計画を踏まえ、ウェルビーイングに係る記述を最上位の目的に掲げ、循環共生型社会の構築を目指すことを追記します	A
7	p.9	1章	持続可能な資源循環への移行	「IPCC」が本文中にいきなり出てきているので、注釈での説明か、巻末の用語集で説明した方が良い	「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」に修正します	A
8	p.9	1章	サーキュラーエコノミー	3Rと記載があるが、国の位置づけではリフューズ、リペア、レンタルを加えた6Rになっているのでは	当該項目では「サーキュラーエコノミー」が求められている社会動向を中心に記述していますので、ご理解いただければと存じます。一方で、ご意見のとおり「R」には様々な解釈・取組が増えているため、国の動向を注視し、今後の取組の参考とさせていただきます	C
9	p.9	1章	生物多様性の危機	ネイチャーポジティブは自然再興を追記、OECMIは略前の英文を追記した方が良い	「自然再興」は本文中に追記し、OECMの英文は巻末の用語集に追記します	A
10	p.19	1章	生物多様性の状況	ノウルシ、ノカラムツは準絶滅危惧種、フジバカマは絶滅危惧種では	ご意見のとおり修正します	A
11	p.39	2章	SDGsの関連性 表	国のSDGsの進捗状況が変わってきた。市の報告書でも進捗状況が確認できる。P.39の関連表も、現状に合わせて整理するのはどうか	各基本目標の基本的な内容は、計画の継続性の観点から現行計画を踏襲しており、関連性の高いSDGsのゴールも同様と考えています。次回の全面改定時には計画の施策体系を含め、ご意見を参考に検討します	C
12	p.58	3章	基本目標1 ⑨徒歩・自転車利用の促進	「徒歩の促進」につながるハード整備に関する実施施策の位置づけがない	現時点では、脱炭素に向けた行動変容を促す一つの行動として、普及啓発を行っています。ご意見や他市の事例を調査研究しながら今後の検討とさせていただきます	C
13	p.59	3章	基本目標1 食品ロスの削減	食品ロスの削減につながる「3010運動」について追記してほしい	ご意見を踏まえて文章中に「消費者としての適正量購入・消費などの取組」を追記します。	A
14	p.69	3章	基本目標3 市内日中パトロール実施回数	どんなことをする指標が分かりにくい	p.70欄外に取組の補足説明を追記します	A
15	p.76	3章	基本目標4 合併処理浄化槽普及率	下水道審議会の議論を経て目標値が変わる可能性があるため、整合性を図って欲しい	ご意見を踏まえ、他の計画と整合性の取れた目標値となるよう確認します	A
16	p.76	3章	基本目標4 希少植物種の保護実施箇所数	箇所数が指標でよいのか。育てたものを自然に戻す努力も必要なのでは	中間見直しに際し、「希少植物種の保護実施箇所数」を取組指標に掲げ、現況値の3箇所から6箇所に増やすことを目標値としています。具体的な取組については、いただいたご意見も踏まえ今後の参考とさせていただきます	C
17	p.77	3章	基本目標4	「4-1 生きものの減少防止と回復」について、生きもののモニタリングを行わない限り、生きものが減少しているか回復している、生物多様性が変化しているかわからない。モニタリングが行われなければ、保全する生き物の種類、施策に効果があったか、どのような環境(草地、樹林地……)を優先的に保全するかなどがわからないのではないだろうか。	生きもののモニタリングには時間を要するため、実施手法等も含め、次期計画策定に向けて検討を行ってまいります	C

No	素案該当ページ	章	該当箇所	意見要旨	意見に対する市の考え方	区分
18	p.81	3章	基本目標4 ④水質の改善	PFOS・PFOAによる河川の水質状況など、市民が安心できるデータを追記してはどうか	河川の水質状況については、p.23「水環境の状況」に記載がございます。同項目では、BOD(生物化学的酸素要求量:河川の汚れの代表的な指標の一つ)を用いて状況を説明しており、近年、水路や河川の水質が改善傾向にあることを示しています。	B
19	p.95	3章	基本目標6 ⑤市民のエシカル消費の推進	説明文中、「消費行動への転換」という記載があるが、市民が見たときに表現がふさわしくない、「行動変容」といった表現に変更してはどうか	ご意見を踏まえ「～消費行動を取るなどの行動変容が必要です」に修正します	A

※網掛けは、審議会後に追加意見用紙にて提出いただいたご意見です